

第 5 回長時間透析研究会 2009 年 11 月（横浜市）

「当院における透析間体重増加と除水方法の考察」

医療法人幸善会 前田病院

前田利朗、都知木康行、田中望美、前田里美、古賀美代子、

盛田扶美、松本睦子、藤森武夫、熊川智恵子

対象および方法

2009 年 3 月～5 月の期間中、当院で血液透析を施行した 134 名の患者のうち、1 回の欠落もなく観察しえた 119 名を対象として透析間体重増加量を調査し、併せて当院の除水方法について検討した。対象となった透析患者は男 67 例（うち糖尿病 21 例）、女 52 例（うち糖尿病 13 例）で、年齢はそれぞれ 64.6 歳、67.3 歳、透析歴は 9.3 年、9.0 年であった。

除水方法については、当院では時間均等除水を行っており、1 回の透析（6 時間）における最大除水量は 3600ml 以下を基本としている。体重が 50～70kg の患者にとっては問題ないが、40kg 前後の軽量者にとっては、3600ml の除水は過大であり、血圧低下などの不快症状を呈することになりかねない。このため軽量者や高齢者に対しては、1 回の透析での除水量をドライウェイト（以下 DW）に対する比率で制限を設けて実施している場合がある。本研究では制限を有する患者のプロフィールを調査し、その特徴について検討した。

結果

透析間体重増加量は中 1 日の場合、平均 0.9kg で DW に対する増加率は 1.7%であった。中 2 日での体重増加量は平均 1.7kg、増加率は 2.7%であり、当院患者の透析間体重増加は決して多いものではなかった。

対象 119 名のうち、1 回透析での除水量を 2000~3000ml までに制限している症例は 45 例（男 13、女 32）で、全体の 38%であった。その平均年齢は 70.9 歳で制限のない群の 63.0 歳に比べ高かった。除水制限群は圧倒的に女性が多く、その DW は平均 42.5kg と制限のない群より軽量の症例が多かった。透析間体重増加については、除水制限の有無に拘わらず中 1 日の増加量は両群ともに平均 0.9kg であったが、DW を基準とした体重増加率で見ると、制限群の平均 1.9%に対して制限のない群は 1.6%と差が見られた。透析中の血圧下降の頻度は、除水制限群の方が約 2 倍近く高かった。観察期間中の延べ 4641 回の透析うち、血圧下降などの不快症状に対して生理食塩液の補液を必要としたのは 46 回で、約 100 透析に 1 回の頻度であった。

考察

当院の透析間体重増加量は全体として多くはない。しかし、増加率で見ると、軽量者に高い傾向が見られ、このことが透析中の血圧下降などの不快症状出現頻度に関与していると思われた。軽量者や高齢者の1回除水量は、通常、DWの5~6%程度までに制限しているが、最大で7%を越える場合もあり、原疾患や年齢などを考慮して、症例ごとに調整を行う必要があると思われた。